

基準 8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

観点 8-1-1 : 大学において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、講義室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館その他附属施設等が考えられる。）が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされているか。

【観点到る状況】

本学は、宮城県仙台市内の主要 5 地区（片平、川内、青葉山、星陵、雨宮）を始めとして、約 2,132 万㎡の校地に延べ床面積約 98 万㎡の教育・研究施設等を保有している。（資料 8-1-1-1～3）

講義室・ゼミ室は、学部・研究科の大半が配置されている 3 地区（雨宮・川内・青葉山）に整備し、実験・研究施設は、理工系の学部・研究科及び附置研究所が配置されている 3 地区（片平・雨宮・青葉山）に整備されている。また、施設の有効活用を促進し、教育研究活動の一層の活性化を図るため、「共同利用スペース整備規程」に基づき、共同利用スペースを確保し、効率的な施設の運用に努めている。

共用施設としては、附属図書館、屋内運動場（体育館、武道場、弓道場）、屋外運動場（グラウンド、テニスコート等）、プール、講堂、博物館・史料館を整備している。

附属図書館は、川内団地の本館を中心に、4 分館（医学分館（星陵団地）、農学分館（雨宮団地）、工学分館及び北青葉山分館（青葉山団地））を設置し、施設面積合計約 3.3 万㎡（うち、閲覧面積約 1.3 万㎡、書庫面積約 1 万㎡）、蔵書数約 367 万冊を保有しており、この他各学部・研究科、附置研究所等内にも図書室を配置している。（資料 8-1-1-4）

現在、農学部、電気通信研究所等の青葉山新キャンパスへの移転計画に伴い、新分館の基本計画案を策定しており、既存の北青葉山分館及び工学分館はサテライト館（図書室）とし、将来の附属図書館機能は、本館（川内地区）、医学分館（星陵地区）及び新分館（青葉山地区）の 3 館に再編・統合し、効率的な運用を図るとともに、保存図書館機能充実とより機能的な利用者サービスを提供する予定である。

バリアフリー施設・設備については、エレベーター、自動ドア、スロープ、身障者用トイレなど 470 の施設・設備を各団地に整備している。（表 8-1-1-2）

なお、平成 18 年 7 月に、自己財源を最大限に活用した新たな整備手法により、約 81 ヘクタールに及ぶ青葉山の土地を取得し、「杜の都・仙台」のシンボルとして親しまれてきた青葉山の豊かな自然環境に配慮した「環境調和型キャンパス」の実現を目指すなど、青葉山新キャンパス基本構想に基づくキャンパス整備計画を進めている。（資料 8-1-1-5）

表 8-1-1-1 地区別主要施設

地区	主要施設
片平地区	生命科学研究科、法科大学院、公共政策大学院、金属材料研究所、流体科学研究所、電気通信研究所、多元物質科学研究所、本部事務機構
星陵地区	医学部、医学分館、歯学部、医学系研究科、歯学研究科、加齢医学研究所、附属病院（1308 床）
雨宮地区	農学部、農学研究科、農学分館、生命科学研究科、加齢医学研究所
川内地区	共通教育関連施設（講義棟、実験棟等）、附属図書館、文学部、教育学部、法学部、経済学部、

	文学研究科, 教育学研究科, 法学研究科, 経済学研究科, 国際文化研究科, 教育情報学教育部・研究部, 会計大学院, 東北アジア研究センター, 高等教育開発推進センター, 国際交流センター
青葉山地区	理学部, 薬学部, 工学部, 理学研究科, 薬学研究科, 工学研究科, 情報科学研究科, 生命科学研究科, 環境科学研究科, 国際高等研究教育機構, サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター, 未来科学技術共同研究センター, 学際科学国際高等研究センター, 情報シナジー機構, 環境保全センター, 北青葉山分館, 工学分館

施設部調べ

表 8-1-1-2 バリアフリー施設・設備

区 分	片 平	星 陵	雨 宮	川 内	青葉山	合 計
エレベータ	17	23	1	8	24	73
自動ドア	10	18		8	38	74
スロープ	26	10	2	10	25	73
トイレ	8	57	1	22	30	118
駐車場		4			2	6
点字ブロック	2	1		2		5
手摺り	25	26	1	9	50	111
呼出設備	2				7	9
その他施設				1		1
合 計	90	139	5	60	176	470

施設部調べ

資料 8-1-1-1	東北大学概要 2006 (和文) 施設所在地一覧 http://www.bureau.tohoku.ac.jp/koho/pub/gaiyou/gaiyou2006/pdf/2006p57.pdf
資料 8-1-1-2	東北大学概要 2006 (和文) 土地・建物 http://www.bureau.tohoku.ac.jp/koho/pub/gaiyou/gaiyou2006/pdf/2006p37.pdf
資料 8-1-1-3	東北大学概要 2006 (和文) 建物配置図 (片 平) http://www.bureau.tohoku.ac.jp/koho/pub/gaiyou/gaiyou2006/pdf/2006p59.pdf (川 内) http://www.bureau.tohoku.ac.jp/koho/pub/gaiyou/gaiyou2006/pdf/2006p60.pdf (青葉山) http://www.bureau.tohoku.ac.jp/koho/pub/gaiyou/gaiyou2006/pdf/2006p61.pdf (星 陵) http://www.bureau.tohoku.ac.jp/koho/pub/gaiyou/gaiyou2006/pdf/2006p63.pdf (雨 宮) http://www.bureau.tohoku.ac.jp/koho/pub/gaiyou/gaiyou2006/pdf/2006p64.pdf
資料 8-1-1-4	東北大学概要 2006 (和文) 附属図書館 http://www.bureau.tohoku.ac.jp/koho/pub/gaiyou/gaiyou2006/pdf/2006p26.pdf
資料 8-1-1-5	東北大学新キャンパス構想 http://campus.bureau.tohoku.ac.jp/index.php

【分析結果とその根拠理由】

本学の保有している教育研究等施設の整備率は90%を超え、全国立大学の整備率の平均88.5%を上回るとともに、設置基準上必要な面積を大きく上回っている。

老朽化した施設・設備については、耐震診断調査対象施設の調査を全て完了し、年次計画により改修する予定であり、基幹設備（インフラ設備）についても更新計画に基づき順次実施することとしている。

施設整備計画及び施設マネジメントについては、施設の有効活用を促進し、教育研究活動の一層の活性化を図るための共同利用スペースを確保（約21,000㎡）し、効率的・弾力的な利用を図るなど、施設整備・運用委員会による組織的な施設整備計画及び管理・運用がなされている。

さらに、青葉山新キャンパスについては、本学の財産処分収入を財源として、自己資金を最大限に活用し、施

設整備費補助金のみによらない新たな整備手法による整備計画を実施している。

以上のことから、本学において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され、有効に活用されていると判断する。

観点 8-1-2： 教育内容、方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが適切に整備され、有効に活用されているか。

【観点到に係る状況】

東北大学の情報ネットワークは、昭和 63 年に仙台市内に分散する各キャンパスを自ら設置した光ファイバーで結び整備された。その後、平成 7 年、平成 13 年に更新整備を行い、現在は、片平、星陵、雨宮、川内、青葉山 1、青葉山 2 の 6 キャンパスを GbE 方式と多重化通信（8～16Gbps）を用いたバックボーンネットワークとして運用している。インハウスネットワーク内は 1～2Gbps の伝送速度を実現し、また、地域ネットワークを介して本学に設置されている SINET ノードに接続している。ネットワークの管理については、幹線部分及び外部接続部分を情報シナジー機構が、インハウスを各学部・研究科等が担当している。

これらのネットワーク環境を利用することにより、学生は、Web 履修登録、電子メールの利用、シラバス、休講情報等の学生生活に必要な各種情報の検索を行うことができる。

情報ネットワークセキュリティ委員会は、情報ネットワークの適正な管理・運用を図るために情報ネットワークセキュリティポリシーを策定し、また、「コンピュータネットワーク安全・倫理に関するガイドライン」を作成し、教職員・学生に配付している。

従来、学生は使用する情報システム毎にユーザ ID とパスワードを付与されていたが、平成 17 年度からは学生用全学電子認証システムを導入し、利便性と安全性の向上を図った。

ネットワークセキュリティについては、情報シナジー機構がウィルス対策用ソフトの提供を行うと共にインハウスネットワークにおいてもそれぞれの対策を講じている。また、インシデント発生に対しては、情報シナジー機構ネットワーク研究部及び情報部が窓口となってその対応に当たっている。

学生に対する情報処理教育は、学務審議会が全学教育として実施し、情報教育用計算機システムとして 3 演習室に 345 台の端末機が用意されている。附属図書館本館及び同分館には利用者用端末 169 台が設置され、所属研究室等に設置された端末を利用することもできる。附属図書館の情報検索機器は平成 18 年度に 57 台を更新し、老朽化した X 端末を Windows 端末に切り替え約 25 台を設置し、学生からの要望が高いマイクロソフト社 Word、Excel 等の文書作成ソフトを導入するなど、学生のニーズへの対応と利便性の向上を図った。

資料 8-1-2-1 「コンピュータネットワーク安全・倫理に関するガイドライン」

<http://www.tohoku.ac.jp/japanese/netguide/netguide-j0.html>

【分析結果とその根拠理由】

情報ネットワークの整備状況については、教育内容、方法や学生のニーズを満たし、有効に活用され、保守整備やセキュリティの管理が適切に行われており、市内に分散するキャンパスを高速ネットワークで結び、良く整備されている。

情報シナジー機構、附属図書館、高等教育開発推進センター、情報部等の情報ネットワーク関連の各組織がそれぞれ分野を担当し、有機的に連携して機能していると判断する。

観点 8-1-3 : 施設・設備の運用に関する方針が明確に規定され、構成員に周知されているか。**【観点到に係る状況】**

本学におけるキャンパス整備については、「東北大学新キャンパス構想」の理念・指針に基づき、キャンパスづくりを推進しており、施設の整備計画・運用は、施設整備・運用委員会及び主要団地（片平団地、星陵団地、川内団地、青葉山団地、雨宮団地）の各キャンパス整備委員会により、組織的な施設整備計画及び管理・運用を行っている。

また、施設の有効活用を促進し、教育研究活動の一層の活性化を図るため、「共同利用スペース整備規程」に基づき、共同利用スペースを確保するなど効率的な施設の運用を図るとともに、附属図書館や川渡共同セミナーセンターを始めとする各施設及び全学的共同利用スペースについてはHP、使用規程及び利用手引き等により学内に周知している。さらに、Webによる施設利用実態調査システムを活用し学内施設（講義室、ゼミ室、実験室等）の利用状況の把握に努めている。

資料 8-1-3-1 川渡共同セミナーセンター <http://www.bureau.tohoku.ac.jp/gakuseishien/>

資料 8-1-3-2 課外活動施設 <http://www.tohoku.ac.jp/japanese/studentinfo/studentinfo6-2.htm>

前掲資料 5-1-1-1 全学教育科目履修の手引き（シラバス）・各学部学生便覧

前掲資料 7-2-1-1 図書館本館利用案内

【分析結果とその根拠理由】

内規及び申合せにより施設・設備の運営に関する方針が明確に規定されている。その内容については施設利用の手引き等の作成・配付するとともにホームページでも公開しており、構成員及び利用者に周知されていると判断する。

観点 8-2-1 : 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されているか。**【観点到に係る状況】**

平成 18 年 3 月 31 日現在、附属図書館本館・分館・学部・研究科等図書室等が所蔵する資料群は、蔵書数約 367 万冊、雑誌種類数約 7 万種、視聴覚資料約 5,000 タイトルとなっており、図書館・室単位で系統的に収集、保存とともに、閲覧、貸出などに供されている。

さらに、これまで蓄積され歴史的に形成された資料群は、国宝に指定されている「類聚國史 卷第二十五」「史記 孝文本紀 第十」の他、「西蔵大蔵経」、「狩野文庫」、「漱石文庫」等の多くの貴重書、特殊文庫を有し、全国に誇れるコレクションを形成しており、一部はデジタル化して公開している。（資料 8-2-1-1）

従来の紙媒体資料に加え、電子ジャーナル・二次情報データベース等のデジタル情報の整備に努めており、多数の良質な学術雑誌を収集し、提供コンテンツの豊富さをもって研究第一主義を標榜する研究重点大学に相応しい学術情報基盤を構築している。

また、附属図書館本館に学生用図書選書委員会を設置し、シラバスに掲載図書の優先的購入、全学教育に係わる教員への推薦依頼、学生の購入希望受付等を行い、きめ細かな図書の整備を図っている。

これらの資料を利用者が有効に活用できるよう、利用者マニュアルの作成等を行うとともに、情報リテラシー教育を積極的に実施とともに、各地区の間を資料搬送便で結び、貸出・返却の図書を本館・各分館間で搬送する

サービスを平成 18 年度試行的に実施し、利用者に資料がより有効に活用されるよう方策を講じている。

資料 8-2-1-1 図書館概要 <http://www.library.tohoku.ac.jp/pub/>

【分析結果とその根拠理由】

平成 17 年度における図書館資料の受入は、本館、4 分館併せて図書約 6 万冊、雑誌種類数約 1 万 8 千種類で、年間資料費は約 8 億円となっており、教育研究上必要な資料が整備されている。

電子ジャーナルの可読タイトル数は 9 千タイトル以上に上り、全国トップクラスの講読数を維持しており、人文・社会・自然の各分野についての情報を万遍なく入手できるよう整備されている。

整備した図書の利用は、貸出冊数は年間約 20 万冊、図書館間での相互貸借は約 4 千冊、文献複写は 4 万件を超える程の活用がなされている。

情報リテラシー教育は、図書館のスタッフグループが執筆した「東北大学生のための情報探索の基礎知識 基本編」「同 自然科学編」制作刊行活動とそれらを活用した全学教育科目の支援は、他の国立大学等からも注目を集め、平成 17 年度の国立大学図書館協会賞を受賞し、学内外で高い評価を受けている。また、その成果は丸善が発行元となった「理・工・医・薬系学生のための学術情報探索マニュアル」の刊行として結実している。

さらに、平成 19 年 3 月には留学生対象「英語版(ダイジェスト版)」、人文社会科学系の大学院生対象の「同 人文社会科学編」を刊行した。

キャンパス間搬送サービスに関して、直近の利用者アンケート調査では、継続を強く求める意見が多く出ており、好評を博している。その件数は、貸出返却双方向で月平均 570 件である。

「狩野文庫」「漱石文庫」等の貴重資料は、商業出版物等への掲載依頼を含め利用件数が多く、学内外において活用されている。また、その一部を電子化して公開し、学外からも自由に閲覧できるよう努める等、電子化による資料利用の活性化を図っている。以上のことから、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備されていると判断する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

本学における施設の整備計画・運用は、施設整備・運用委員会等により組織的な施設整備計画及び管理・運用を行っており、また、施設の有効活用を促進し、教育研究活動の一層の活性化を図るため、「共同利用スペース整備規程」に基づき、共同利用スペースを確保するなど効率的な施設の運用を図っている。さらに、青葉山新キャンパスについては、本学の財産処分収入を財源として、自己資金を最大限に活用し、施設整備費補助金のみによらない新たな整備手法による整備計画を実施していることが優れている。

情報ネットワークは、情報シナジー機構、附属図書館、高等教育開発推進センター、情報部等の情報ネットワーク関連の各組織が連携し、教育内容、方法や学生のニーズを満たすとともに有効に機能していることが優れている。

図書館スタッフが情報リテラシー教育に取組み、その資料として作成した「東北大学生のための情報探索の基礎知識 基本編」「同 自然科学編」が学内外から高い評価を受けるとともに、その成果が「理・工・医・薬系学生のための学術情報探索マニュアル」として出版されたことが優れている。

【改善を要する点】

なし

(3) 基準 8 の自己評価の概要

本学では、「東北大学新キャンパス構想」に基づき、知的創造活動や知的資源の継承にふさわしいキャンパス環境を創造し、新しい時代に対応した学術文化拠点づくりを進めており、本学の施設・設備は、大学設置基準に準拠し計画的に整備され、有効に活用されている。

施設の整備計画・運用については、施設整備・運用委員会等により組織的な施設整備計画及び管理・運用を行っており、施設の有効活用を促進し教育研究活動の一層の活性化を図るため、「共同利用スペース整備規程」に基づき、共同利用スペースを確保するなど効率的な施設の運用を図っている。また、老朽施設・設備については計画的な改修・更新を図ることとともに、バリアフリー化を推進するなど安全・安心な教育・研究環境の整備に努めている。

なお、青葉山新キャンパスについては、本学の財産処分収入を財源として、自己資金を最大限に活用し、施設整備費補助金のみによらない新たな整備手法による整備計画を実施している。

体育施設、講義室、演習室、情報処理学習施設、語学学習施設、図書館等の学生が使用する施設・設備については、学生便覧や学生生活案内に利用内規や利用方法が掲載され、ホームページでも周知されている。

なお、新キャンパスは、運営費交付金や施設整備費補助金によらない新たな整備手法として、片平地区の南ブロック及び雨宮地区等の処分収入等を財源とする整備手法により、具体的に計画が進行している。

情報ネットワークについては、教職員のみならず学生も利用しやすい環境が整備されており、情報シナジー機構、附属図書館、高等教育開発推進センター、情報部等の組織が有機的に連携し、保守整備やセキュリティ管理が機能的に適切に行われている。また、市内に分散するキャンパスは高速ネットワークで結ばれており、良く整備されている。

図書、学術雑誌等の教育研究上必要な資料については、学術図書・電子ジャーナル等は系統的に整備され、有効に活用されている。

また、学生用図書選書委員会を設置し、シラバスに掲載された図書を優先的に購入するといった、きめ細かな図書の整備も図られており、さらに、図書館スタッフの積極的参加により、情報リテラシー教育の一環として「利用者マニュアル」の作成が行われている。